校長室だより～燦燦～ №９２５

師走

2023.12.16

「師走」この言葉の響きが好きである。年末を迎える１２月は慌ただしい。１年の区切りをつける時期である。師走だからと言って、教師だけが走っているわけではない。とはいっても、実際には、教師が走るほど忙しいのが１２月である。特に、中学校の場合は、高校入試に向けた進路事務がある。研究のまとめもある。様々な提出物もある。通信票もある。書き入れ時であることは間違いない。

２学期の終業式を迎え、ほっとする間もなく、仕事納めの日まで全力で突っ走る。どうしても、年賀状の作成が遅れがちになる。１週間ほどの年末年始も、家庭のことなどをやっているうちにあっという間に仕事始めとなる。スイッチオフの期間が短い。正月明けは、すぐに私立高校入試が始まる。これが現実である。

この状況を改善しようと考えた。どこにメスを入れるか。進路事務や通信票は日程が決まっている。進路事務は中身も決まっている。通信票の中身などは改善の余地はある。ただし、その改善が教師のためだけであるならば一考を要する。通信票は、誰のためのものなのか、何のためにあるのかという視点を失ってはいけない。

研究のまとめはどうだろうか。この締め切りが１月上旬というのがよくない。だから、１２月にまとめの作業をやるようになってしまう。研究授業も１０月や１１月が多くなる。

今年度の野田中学校は、ここにメスを入れた。まず、研究授業を２学期ではなく１学期に行うようにした。授業改善のための研究授業である。そうであるならば、１学期のうちに授業を改善した方がよい。まとめは夏休みにやってしまう。中には、２学期にも研究授業を行う先生がいる。その場合は、１０月中旬までに実施してもらう。そして、１１月中にまとめを終わらせる。今までならば、研究授業のピークを迎えていた１１月をまとめの１１月に変える。長年の慣習を打ち破るのである。１２月、師走に少しでも余裕をもたせたいと考えた。

働き方改革というが、外からの働きかけを待っていたのでは、なかなか進むものではない。内から自ら変わろうとしなければならない。その一つの取組である。１２月の大きな仕事が一つなくなっただけである。どれほどの効果があるのかは、これから明らかになっていく。これをきっかけに、３学期以降も変えるべきところ、変えられるところにどんどんメスを入れていきたい。内なる改革、それができる学校でありたい。